

なかよくする子どもを育てる

いのはみんなつながっていることを知り、
友だちと関わりながらなかよく遊ぶ。

子どものころから、庭にあるブランコに腰かけて、ぼーっと星空を眺めて過ごすのが好きでした。星をぼんやり眺めていられる天文学者になりたいと、真剣に思うようになりました。しかし天文学者は、ただのんびりと星を眺めてばかりいるわけにはいきませんので、いつしかその夢はどこかにいってしまいました。でも、今でも天気が良いければ、星空を眺める時間を大切にしています。

そんな私にとって昨年は、宇宙に関わるビッグニュースが次々と届き、胸をワクワクさせながら過ごした一年でした。「ブラックホール撮影に世界で初めて成功」「小惑星探査機はやぶさ2の活躍」「アポロ11号による人類初の月面探査から50年」等々。そして何よりも印象に残っているのは、8月13日未明の「ペルセウス座流星群」です。たまたま夜中に目が覚めて外に出ると、満天の星空が広がっていました。視力が衰えてきた私にとって、天の川がはつきりと捉えられたのは、何年ぶりだったのでしょうか。久しぶりにぼーっと夜空を眺めていると、時折空を横切る流星をいくつか見ることができました。こんなにのんびりと星空を眺めることができるのも、日本が平和な国だからだなあ、とつくづく感じました。

ところが、この宇宙空間をわが物にしようとする国がある、との報道があります。決して映画やアニメの中のことではなく、実際に地球上に存在する国家が、空だけではなく、宇宙空間までも支配しようとしているというのです。人間には独占欲と支配欲という「欲望」がありますが、これも際限がないのだなあ、と思わざるを得ません。

地球外生命の存在について研究が進められていますが、現在のところ、その存在は確認されていません。ということとは、「いのち」があるのは地球だけ、ということなのです。さまざまな説がありますが、およそ46億年前に地球は誕生し、最初の生命は約38億年前に誕生したそうです。その小さな命の誕生があつて、それが今日までいろいろな姿、形を取りながら伝わってきています。人類の歴史を見るだけでも、命のつながりの不思議さを深く感じずにはいられません。現在武器を取り合い、命の奪い合いをしている人々も、元をたどれば同じ一つの小さな存在だったのです。命のつながりを意識すれば、それを奪おうとすることなど考えられないはずです。

子どもたちには「なかよくしましょう」と言い、小中学生になると「平和学習」をして、戦争のない平和な国を作りましょう、と教わります。それなのに、いつの間にか「ヘイトスピーチ」や「フェイクニュース」など、人を傷つけることを覚えます。仏さまのお心を深く感じ取られた妙好人の善太郎さんの言葉に、「心に思うことも地獄の仕事」という言葉がありますが、本当にそうだなと思うことです。だからこそ、大人がまず「なかよくしましょう」の自覚をもって、日々を過ごしていくことが大切です。

まことの保育の願い

教育原理委員会 西谷正文